

校長先生の初恋物語

第63話 7月のリレー大会



7月のリレー大会当日。2組のみんなは、2時間目に、教室の中で円陣を組みました。1つの大きな円の中に、みんながいました。ジャイアンも、いやいやだけど、きのこ君がひっぱってきて、むりやり円陣の中に入れました。

学級委員のとっくんが、みんなに言いました。

「今日のリレー大会は特別な大会だよ。だって、このリレー大会を最後に、アマーラさんは、鹿児島に帰るんだ。アマーラさんと走ることができるのは、これで最後なんだ。」

みんなは、アマーラさんを見ました。アマーラさんは、みんなの1人1人の顔を見ていました。

「いつも、リレー大会では、きんに君と足長君に迷惑をかけてるけど、今日は、足が遅い人達も、秘密練習してきたら、どんなにはなされても、最後まであきらめずに、がんばろう。そして、今日こそ、ビリは卒業して、優勝しよう。」

「おーっ。」

みんなででっかい声を出しました。その声と同時に、2時間目が終わるチャイムが鳴りました。2組の目印、黄色いはちまきをしめ直して、みんなは運動場におかいました。

きんに君が一番張り切っていました。はちまきをしめると、そのまま運動場に向かって廊下を走って行ってしまいました。

「ウォーっ。」

と叫びながら階段をかけおりていくきんに君の声が、マンモス小学校全体にひびきました。ダンプさんがあわてて言いま

した。
「きんに君、あんなに張り切って、階段から転げ落ちてまた足の骨でも折ったら嫌でしょ。」

そして、ダンプさんは、きんに君の背中に向かって、

「こらっ。ろうかを走るな。けがするぞー。」

と一緒に走って行ってしまいました。

運動場にとっくんたちが行ったころには、きんに君は、ダンプさんにつかまっていた。きんに君が一番早く運動場に到着したらしく、あとからダンプさんにきいたら、運動場のど真ん中で、

「アチョーッ。アタタタタタタタ。」

と、大声で叫びながら、空手のポーズをしていたらしいです。そんなはずかしい姿を他のクラスに見られないように、ダンプさんがつかまえているとのことでした。でも、きんに君もそれだけ張り切っているということ、とっくんもきんに君と気持ちは同じです。

リレー大会は1年生の部から順番に進み、最後が6年生です。ついに始まります。

「位置について、ヨーイ、パンッ。」

第一走者が飛び出して行きました。きれいなスタートです。2組の第一走者は、結局は、クラスで3番目に速い、コージ君にしました。コージ君のダッシュはかんぺきでした。サッカーできたえている足で、力強く走って行き、いきなりトップになりました。2組のみんなが、もりあがりました。とっくんは感じていました。「いける。このみんなの雰囲気だったらいける。今日は絶対に勝てる。」

しかし、そんなに甘くはありませんでした。

つづく

次回予告 走れ よしこさん

